

(別記)

2019年度八雲町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域の水田面積は579haであり、平成30年産における主食用米面積が223ha、非主食用米が108haであり、転作作物については、太平洋側の八雲地域については、軟白ねぎや花卉をはじめとした施設栽培作物や、大豆等の土地利用型作物、露地ねぎをはじめとした野菜、飼料作物が主となっている。日本海側の熊石地域においては、トマト等の施設栽培作物をはじめ、大豆、小豆、小麦、馬鈴薯といった土地利用型作物や、てん菜などが主な転作作物となっている。

主食用米の需要が減少する中で、水田機能の維持のためにも、水張り転作を推進していくとともに、施設栽培作物等の高収益作物や、消費者、実需者ニーズに合った作物への作付転換を図っていく必要がある。

また、大豆や麦等の連作障害を防ぐためにも、緑肥や薬用作物等を組み入れた輪作体系の構築や、安全で環境に配慮した農業の推進、地域農産物の商品力強化と消費拡大の取組が必要である。

2 作物ごとの取組方針等

町内の水田579ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

もち米生産団地である八雲地域においてはもち米、熊石地域においてはうるち米の売れる米づくりの徹底によって、米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集出荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、水張り面積、水田機能の維持のためにも飼料用米を地域における重要な転作作物と位置づける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、共同防除の取組の推進によるコスト低減や、産地交付金を活用した生産拡大を図る。

イ 米粉用米

平成31年度時点では米粉用米の取組予定はないが、今後主食用米の需要減が見込まれる中で、米粉用米も含めた水張り転作を検討していく。

ウ 新市場開拓用米

平成31年度時点では新市場開拓用米の取組予定はないが、今後主食用米の需要減が見込まれる中で、新市場開拓米も含めた水張り転作を検討していく。

エ WCS 用稲

平成31年度についてはWCS用稲の作付予定はないが、八雲町は酪農が盛んな町でもあることから、主食用米の需要減が見込まれる中で、水張り面積の確保、自給飼料の確保のためにもWCS用稲も含めた水張り転作を検討していく。

オ 加工用米

飼料用米と併せ水張り面積、水田機能の維持のための地域における重要な転作作物と位置付ける。また、実需者ニーズを把握しニーズに合った生産を行うとともに、新たな需要の開拓を目指す。また、産地交付金を活用し、主食用米に代わる主力の転作作物として生産拡大を図る。

カ 備蓄米

平成31年度時点では備蓄用米の取組予定はないが、今後の主食用米の需要減が見込まれる中で、備蓄用米も含めた水張り転作を検討していく。

(3) 麦、小豆、大豆、飼料作物

麦、小豆、大豆の生産にあたっては、収量・品質の向上を目指し、緑肥、薬用作物等を活用した適正な輪作体系の構築による高品質な製品の生産を目指す。また、不作付地における作付拡大を推進し、水田の有効活用を目指す。飼料作物については、八雲町において酪農が基幹産業であることから、今後も作付面積の維持を図り、自給飼料の確保を図る。小麦、小豆、小麦については、産地交付金を活用し支援することにより担い手による生産拡大を図る。

(4) そば

そばについては、地域の実需者との契約に基づき安定供給を目指しつつ、大豆等の連作障害の回避に寄与する作物として振興し、産地交付金において支援することにより生産を促す。

(5) 薬用作物

薬用作物については、ハトムギ、トウキ、ソヨウ、オウギを地域における重要な転作作物として位置づけ、契約栽培による安定的な生産・出荷体制の確立を目指す。また、産地交付金を活用し支援することにより、産地形成を進めるとともに、大豆等の連作障害の回避に向けた輪作作物として生産拡大を図る。

(6) てん菜

地域の輪作体系上、重要な転作作物であることから、輪作体系の維持・確立はもとより、国産砂糖を安定的に供給するためにも、産地交付金を活用し支援することにより、生産振興、品質、収量の向上を目指す。

(7) 高収益作物（園芸作物等）

野菜については、実需者ニーズに合った生産を継続しつつ、施設栽培作物等の高収益作物への作付転換を目指す。

振興作物としては、施設栽培作物（軟白ねぎ、花卉（かすみ草、スターチス）、ほうれん草、アスパラガス、みずな、にら、レタス、トマト、ミニトマト、スナップエンドウ、いちご、うど）、みょうが、露地ねぎ、種子馬鈴薯、馬鈴薯（生食用）、その他野菜（かぼちゃ、キャベツ、にんじん、山ごぼう、ごぼう、うど、スイートコーン、トマト、ミニトマト、アスパラガス、大根、たまねぎ、はくさい、きゅうり、なす、ピーマン、かぶ、枝豆、ブロッコリー）を振興作物として位置付け、産地交付金を活用することにより産地形成、生産振興を図る。

(8) 畑地化の推進

主食用米の需要が年々減少する中、野菜等の高収益な畑作物の本格化を進める必要があるが、水田での畑作物栽培は排水の問題や畦畔等による作業効率の問題がある為、より生産性を高めていく為に畑地化による排水改善や作業効率の向上を目指していく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	222.8	222.4	210.0
飼料用米	1.9	1.9	2.5
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	106.5	106.9	119.3
備蓄米	0	0	0
麦	4.2	8.0	5.0
大豆	16.7	14.6	17.0
飼料作物	148.8	149.0	149.2
そば	2.0	2.1	2.5
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	39.2	41.1	43.3
野菜	23.0	23.5	25.5
花卉	1.9	1.9	2.0
小豆	0	1.7	2.0
薬用作物	8.2	8.5	8.8
てん菜	2.8	2.9	3.6
その他	3.3	2.6	1.4

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度(実績)	目標値
				(2018年度)20.9ha	(2020年度)24.0ha
1	(基幹作物) 大豆(白大豆・黒大豆)、小麦、小豆	地域振興作物助成A	作付面積 地域単収	大豆 61kg 小豆 0kg 小麦 99kg	大豆 120kg 小豆 120kg 小麦 370kg

2	(基幹作物) 薬用作物 (ハトムギ・トウキ・ソヨウ・オウギ)	地域振興作物助成 B	作付面積 地域単収	(2018 年度) 8.2ha ハトムギ 178 kg トウキ 84 kg	(2020 年度) 8.8ha ハトムギ 190 kg トウキ 580 kg ソヨウ 110 kg オウギ 100 kg
3	(基幹作物) 施設栽培作物 (軟白ねぎ、花卉 (かすみ草・スターチス)、ほうれんそう、アスパラガス、みずな、レタス、にら、ミニトマト、トマト、スナップエンドウ、いちご、うど)、みょうが、露地ねぎ	地域振興作物助成 C	作付面積	(2018 年度) 13.8ha	(2020 年度) 14.4ha
4	(基幹作物) 種子馬鈴薯、馬鈴薯 (生食用)	地域振興作物助成 D	作付面積	(2018 年度) 6.1ha	(2020 年度) 5.2ha
5	(基幹作物) その他野菜 (かぼちゃ、キャベツ、にんじん、山ごぼう、ごぼう、スイートコーン、トマト、ミニトマト、アスパラガス、大根、たまねぎ、はくさい、きゅうり、なす、ピーマン、かぶ、枝豆、ブロッコリー、うど)	地域振興作物助成 E	作付面積	(2018 年度) その他野菜 5.0ha	(2020 年度) その他野菜 9.7ha
6	(基幹作物) てん菜	地域振興作物助成 F	作付面積 地域単収	(2018 年度) 2.8ha てん菜 4,165 kg	(2020 年度) 3.6ha てん菜 4,300 kg
7	(加算) てん菜	高度施肥管理 (土壌診断に基づく施肥設計)	作付面積 地域単収	(2018 年度) 2.8ha てん菜 4,165 kg	(2020 年度) 3.6ha てん菜 4,300 kg
8	そば	そば作付助成	作付面積	(2018 年度) 2.0ha	(2020 年度) 2.5ha
9	秋まき小麦	大豆間作麦輪作加算	作付面積 地域単収	(2018 年度) 2.1ha 小麦 99 kg	(2020 年度) 2.3ha 小麦 370 kg
10	飼料用とうもろこし	高収益作物等拡大加算 A	作付面積	(2018 年度) 13.2ha	(2020 年度) 13.4ha

1 1	加工用米、新市場 開拓米	高収益作物等拡大加 算B	作付面積	(2018年度)106.5ha	(2020年度)119.3ha
1 2	施設栽培作物（軟 白ねぎ、花卉（か すみ草・スターチ ス）、ほうれんそ う、アスパラガス、 みずな、レタス、 にら、ミニトマト、 トマト、スナッ プエンドウ、いちご、 うど）、みょうが、 露地ねぎ、その他 野菜（かぼちゃ、 キャベツ、にんじ ん、山ごぼう、ご ぼう、スイートコ ーン、トマト、ミ ニトマト、アスパ ラガス、大根、た まねぎ、はくさい、 きゅうり、なす、 ピーマン、かぶ、 枝豆、ブロッコリ ー、うど）	高収益作物等拡大加 算C	作付面積	(2018年度)18.8ha	(2020年度)24.1ha
1 3	（基幹作物） 薬用作物（ハトム ギ・トウキ・ソヨ ウ・オウギ）	高収益作物等拡大加 算D	作付面積	(2018年度)8.2ha	(2020年度)8.8ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下
さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり